

2022年3月30日

他人事ではない

NEANET 理事

西盛 祐吉郎

ロシアのウクライナ侵攻で、国連安保理の限界が白日の下にさらされた。まずは、紛争解決に絶対的な権限を持つ国際機関の設置を（同安保理の拡充の可能性を含めて）強く望みたい。

今回の件は他人事ではない。当初、ゼレンスキー大統領がこの難局を乗り切れるか、不安であった。しかし、なかなかどうして、現在までのところ高く評価されている。これがもし日本だったら。体を張って国民の生命、財産を守るような政治家は何人いるだろうか。不祥事を起こせば決まって病院に雲隠れする姿を嫌という程見せつけられてきており、我先に亡命するのでは、と思いたくなる。そうでないことを願いたい。

今回はプーチン大統領の長期政権に負うところ極めて大きい。長期は必ず独裁体制を生む。政治体制がどうであれ、何処も同じ。日本では首相は数年で交代し心配は少ないが、地方自治体の長には多選が実に多い。甘い汁を吸う側近たちはぬくぬく育ち幅を利かせているのでは。任期制を持ち出せば、選挙で禊は済んだと意に介さず、これでは住民は為すすべがない。マスコミは中央には厳しいが、地方には比較的甘い気がする。菜根譚の「事を謝するは当に正盛の時に謝すべし」を教訓に、自ら律して欲しい。

北東アジアにはロシア、中国、北朝鮮が存在している。今回の侵攻で複雑な思いがする。日本列島を動かすこともできず結局、彼らと上手く付き合っていくしかないのでは。釜山を出ると間もなく対馬列島、博多までは高速艇で僅かに3時間余。韓国は良き隣国である。言い分はあろうが、日本はもっと大人の対応をとるべきでは、と思う。中国は巨大市場故、無碍にはできない。ロシアはロジスティックで重要な位置にあり、それは北朝鮮とて同様。

日本の発展には、エリア内の平和と安定は至上命題である。もし主義主張の違いから摩擦が生じれば、その時は平定に向けて汗をかける日本であって欲しい。そのためには日頃から信頼を得る努力が必要である。日本には必ずできると思うし、日本にしかできないことなのかもしれない。極めて日本人的発想になってしまったが。

そのためには自らの国家観と、特に同エリア内の明確なグランドデザインを描いておかねばならない。これは政治家だけでなく各界、各層が参画して構築していくべきである。Neanet もその一翼を担うべきと思う。日本は「民」の力があまりにもおとなし過ぎる。

以上